

実数 p, q, r に対して, x の 3 次多項式 $f(x) = x^3 + px^2 + qx + r$ を考える. 以下の間に答えなさい.

- (1) 複素数 α に対して, $f(\alpha) = 0$ であるなら, $f(\bar{\alpha}) = 0$ であることを示しなさい. ただし, $\bar{\alpha}$ は α の共役複素数である. つまり, α の実部, 虚部を各々 s, t とすれば, $\alpha = s + ti$, $\bar{\alpha} = s - ti$ である. ただし, i は虚数単位である.
- (2) α, β, γ を 3 次方程式 $f(x) = 0$ の 3 つの解とする. このとき, α, β, γ の少なくとも一つは実数であることを示しなさい.

(17 兵庫県大・経済・経営 3)

【答】

- (1) 略
(2) 略

【解答】

- (1) $f(x) = x^3 + px^2 + qx + r$
共役複素数については

$$a \text{ が実数のとき, } \bar{a} = a$$

また

$$\begin{aligned} \overline{z_1 + z_2} &= \bar{z}_1 + \bar{z}_2, \\ \overline{z_1 z_2} &= \bar{z}_1 \bar{z}_2 \end{aligned}$$

が成り立つことより, n を自然数とすると

$$\begin{aligned} \overline{z_1 + \cdots + z_n} &= \bar{z}_1 + \cdots + \bar{z}_n, \\ \overline{z^n} &= \bar{z}^n \end{aligned}$$

も成り立つ. これより, $f(\alpha) = 0$ のとき

$$\begin{aligned} f(\bar{\alpha}) &= (\bar{\alpha})^3 + p(\bar{\alpha})^2 + q\bar{\alpha} + r \\ &= \overline{\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r} \\ &= \overline{\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r} \\ &= \overline{\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r} \\ &= \overline{f(\alpha)} \\ &= \overline{0} \\ &= 0 \end{aligned}$$

よって, $f(\bar{\alpha}) = 0$ である.

…… (証明終わり)

- (2) 背理法を用いる. α, β, γ のすべてが虚数であると仮定する.

虚数 α に対して, (1) より, $\bar{\alpha}$ も $f(x) = 0$ の虚数の解である. $\bar{\alpha} \neq \alpha$ であるから, $\bar{\alpha}$ は β または γ のどちらかである. $\bar{\alpha} = \beta$ としてよい. 解と係数の関係より

$$\alpha + \bar{\alpha} + \gamma = -p$$

$$\therefore \gamma = -p - (\alpha + \bar{\alpha})$$

ここで, p も $\alpha + \bar{\alpha}$ も実数であるから, γ は実数である. これは α, β, γ のすべてが虚数であることに反する.

よって, α, β, γ の少なくとも一つは実数である.

…… (証明終わり)